

令和7年度

学校評価書(年度末)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和7年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合									
												0	50	90							
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的 深い・学び	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	年度末 A	◇目標値を達成しているため、A評定とした。教職員は前期と同じく高い評価であるが、保護者の肯定的な回答が9割を下まわり、生徒も下がっている。これは、教師は毎時間の授業を工夫し実践しているが、中間期に比べ学習内容が難しくなったことから、生徒にとって「分かった」「できた」が実感されていない場面が増えたのではないと思われる。	生徒2-1	67	26	6	1	93										
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆生徒が主体的に取り組むための課題設定と、対話を促す授業展開の工夫、学びの到達を自覚させるための手立て等を再度見直す。また、単元のねらいを大切にしながら、生徒の気持ちに寄り添った支援を考えていく必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組																
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	年度末 A	◇生徒の肯定率は少し下がっているものの、高い評価である。前期と同様、各教科で学習用端末(クロームブック)を活用した授業が展開されていることが要因であると考え。特に小テストやドリルパークは、基礎的・基本的事項を個人レベルで確認することができる有効な方法であった。	生徒2-3	51	41	7	1	92										
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定	◆前期同様、「指導の個別化」と「学習の習慣化」に有効なICT活用について、教員間で情報共有と検証を継続していく。さらに、校内職員研修として、生成AIの活用についても、情報を共有しながら検討していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組																
	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	年度末 B	◇中間期と比べ、生徒の肯定率はほとんど変わらず、目標値を達成している。その反面、保護者の肯定率は下がっている。これは、家庭学習を前向きに取り組んでいると生徒が感じている反面、保護者は、もう少し取り組んでほしいと考えている結果だと思われる。	生徒1-2	36	47	14	3	83										
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	◆宿題の出し方や具体的な自主学習の方法について、職員間で情報を共有したり、生徒の取組について確認したりする必要がある。特に支援が必要な生徒への対応については、個に応じた家庭学習となるよう配慮していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組																

【学校運営協議会における意見・提案等】
 ○学習用端末を利用する場面が、学校内では多くなってきている。テスト対策やドリル学習など、振り返り等での利用が増えたことに抵抗感がある生徒がいることも考えられる。多様な活用方法を検討してほしい。
 ○家庭を含め、学校外での利用を促進する手立てが必要ではないか。例えば、子供たちがそれぞれに課題設定をして取り組む学習や、学習用端末を使いたくなるような場面設定などを検討してはどうか。それによって達成感を積み重ね、学ぶことの楽しさを知ることにつながっていくかもしれない。また、学習用端末のメリットをそれぞれに考えさせることも大切だと思う。生徒と保護者の意識の差や、学習用端末での学習の見えづらさもあるため、保護者の意識改革に向けた啓発も大切になってくるだろう。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和7年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合										
												0	50	90								
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中気持生ら のよ い言 挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	年度末 A	◇教職員・生徒・保護者・地域の肯定率が8割を超えており、A評定とした。特に地域からの評価が高い結果となった。学校運営協議会や地域アンケートの自由記述からも、地域においても挨拶ができている様子が見えてくる。生徒会役員を中心とした朝の挨拶運動の効果もあり、挨拶をする意識や習慣が高まっているためと考える。	生徒1-7	55	40	5	0	95											
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	◆形式的な挨拶はできているが、相手に伝わるよりよい挨拶や、時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができるよう、生徒主体の実践的な取組を通して全校生徒の意識を向上させていきたい。	保護者1-2	47	41	12	1	87												
	教職員3-3	18	76	6	0	94																
						地域1-1	27	73	0	0	100											
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況																
⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	年度末 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。いじめ対策委員会での話し合いを受けた人権委員会から各学級への呼び掛けや、校別人権・同和教育懇談会の参観授業や人権に関する講演会など、様々な取組や交流の場を通して人権に対する意識の高揚が図られている結果であると思われる。	生徒1-11	59	38	2	1	97												
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	◇人権に関する講演会では、講師に対して生徒から積極的な感想発表や質問が多数見られた。人権学習に対する生徒の意識が高まっていることが感じられる。今後も充実した学習機会の提供を継続するとともに、学校全体で認め合い、互いを尊重し合える環境・雰囲気づくりを進めていくことが大切である。	保護者2-8	34	54	7	5	88													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報																
⑨	道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	年度末 A	◇生徒・教職員ともに肯定率が9割を超えており、A評定とした。特に、中間期と比べて、生徒の評価が4ポイント上昇しており、これまでの取組を肯定的に捉えている。しかし、教職員は100%だった前期と比べて、6ポイント下がっており、計画的な道徳の実施が難しい教員がいたのではないかと考えられる。	生徒2-11	59	38	2	1	97												
		【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆今後も校内研修での道徳教材の啓発を継続し、地域資料開発、ローテーション道徳の継続等を行い、魅力的な授業を展開する。また、授業だけでなく、学校生活のあらゆる機会を通して道徳教育の充実を図り、生徒の道徳的実践力を育成していく。	教職員6-1	41	53	0	6	94													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容																

【学校運営協議会における意見・提案等】
 ○いずれも目標値を達成できていて素晴らしい。引き続き、継続して心の育成をお願いしたい。
 ○挨拶はコミュニケーションの窓口であり、非常に大切である。地域でも挨拶ができている生徒が多いので、啓発を引き続き継続してほしい。
 ○部活動、学校行事、授業前など大きな声でよく挨拶ができている。「挨拶」の言葉の意味を理解することも大切。挨拶の本当の大切さは、大人、社会人になって気付く。今の段階では、校内・地域で継続して行い、習慣化してほしい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和7年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4・3の割合								
							4	3	2	1	%	0	50	90	
IV 健やかな体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	年度末 A	◇生徒、保護者、教職員の三者アンケートにおいて、いずれも8割を超える肯定率だったため、A評定とした。保健体育科の授業や運動部活動を通じ、生徒の体力向上につながる適切な運動機会が質・量ともに十分に確保されていると考えられる。	生徒1-6	56	28	14	2	84	[Progress Bar]			
			【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割以上が肯定	◆運動部に所属していない生徒や運動を苦手とする生徒に対し、「できた」という達成感を得られるスモールステップの導入など、学習内容を工夫していかなければならない。保健体育科の授業において日常的な補強運動を継続し、体力の底上げを図り、習慣化することで、生徒が自らの成長を実感し、運動への肯定的な意識を高められるよう努めた	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果										
	⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	年度末 A	◇生徒・保護者・教職員いずれも100%近い肯定的な回答であったため、A評定とした。今学期は避難訓練、防災小説、数多くの体験的な学習を行ったためこのような結果になったと思われる。それに伴い生徒の知識や防災意識も向上してきているように感じる。	生徒2-6	70	28	2	0	98	[Progress Bar]			
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆今年度は、1、2年生で起震車体験、2、3年生で耐震化の学習などを実施した。さらに、1年生では事前復興教育が加わり、総合的な学習の時間を圧迫している。今後は、年間計画を見直し、無理のない範囲で防災教育を実施していきたい。また、避難訓練については実際の災害に近い形を想定しながら実施していきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・避難訓練の様子 ・各学年における防災学習										
	⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	年度末 A	◇生徒の8割が「意識して生活できている」と回答しているためA評定とした。毎日の健康観察で、睡眠や朝食摂取の状況、体と心の状態を入力し自分の生活を振り返る機会となっていることが効果的であったと考える。今後も高い意識を維持できるように支援したい。	生徒1-8	45	41	11	4	85	[Progress Bar]			
			【目標値】 生徒の8割以上が肯定	◆心と体の健康チェックの結果を見ると、朝食摂取の割合は高くなったが、ネット端末の使用、起床就寝時刻では、生活習慣が乱れている生徒がいる。生徒保健委員会による「健康を考える週間」の活動や、基本的な生活習慣が定着していないと回答した生徒への個別指導を行い生活習慣の改善を図りたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・健康観察の結果 ・心と体の健康チェック										

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 体力の向上については、体力の維持や習慣化が少し薄れているのではないかと。学校・家庭・地域を含めた協力体制などを工夫する必要がある。
- 朝食は、毎日、バランスよく食べるのは難しい。何でもよいから、何か食べられればよい。まずは、何か食べることから始めるよう指導・啓発してほしい。
- 朝食づくりには、心と時間のゆとりが必要である。このことは、家庭によって様々な事情がある。朝食も大切であるが、まずは、親子間のコミュニケーションを大切にしてほしい。

